

会 議 録

- 1 会議名 令和5年度第1回北九州市自殺対策連絡会議
- 2 会議種別 市政運営上の会合
- 3 議題
 - (1) 開会
 - ・事務局挨拶
 - ・出席者紹介
 - (2) 報告事項
 - ・直近の自殺の動向について
 - (3) 協議事項
 - ・北九州市自殺対策計画の評価・見直し(第3回)(案)について
 - (4) その他
 - ・北九州市自殺対策連絡会議構成員の自殺対策関連取組み状況票確認のお願い
- 4 開催日時 令和5年4月17日(月)18時30分～19時35分
- 5 開催場所 総合保健福祉センター 2階 講堂
(北九州市小倉北区馬借1-7-1)
- 6 出席者氏名
別紙「令和5年度第1回自殺対策連絡会議出席者」のとおり
- 7 議事概要
 - (1) 開会
 - ア 事務局挨拶
 - ・事務局にて開会宣言を行った。
 - イ 構成員紹介
 - ・事務局にて構成員の紹介を行った。
 - (2) 報告事項
 - ア 全国の令和4年中における自殺の概況
 - ・令和4年の全国の自殺者は、令和3年に比べて874人増加し21,881人。
男女別では、男性14,746人、女性7,135人。
 - ・自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)は、令和4年は17.5。男女

- 別では、男性24.3、令和3年に比べて1.5ポイント上昇。女性11.1で、0.1ポイント上昇。
- 月別の自殺者数の推移では、5月が最も多く、2月が最も少ない。
 - 年齢階級別の自殺者数では、令和4年は令和3年と比べ、20歳代、30歳代、70歳代以外の各年齢階級で増加。50歳代が最も大きく増加（475人増加）。自殺者数も最も多い（4,093人）。
 - 年齢階級別の自殺死亡率では、令和4年は令和3年と比べ、20歳代のみ低下。50歳代（2.1ポイント）・60歳代（1.2ポイント）上昇。50歳代（23.4）の自殺死亡率が最も大きい。次いで40歳代（21.1）。
 - 職業別の自殺者数では、最も多いのは無職者（11,775人）、次いで有職者。
 - 自殺の原因・動機別自殺者数は、これまで、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限り、自殺者1人につき3つまでを計上していたが、令和4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含めて、自殺者1人につき4つまで計上可能となった。健康問題が最も多く、次いで家庭問題が多い。
 - 都道府県別の自殺者の状況（自殺死亡率）は、令和4年は19府県で減少、28都道府県で増加。

イ 北九州市の令和4年中における自殺の状況

- 自殺者数は、令和4年183人、内訳は男性134人、女性49人。令和元年以降増加しています。
- 月別の自殺者数（令和4年の月別自殺者数は暫定である）は、3月20人、4月以降は増減を繰り返しており、9月には再び20人となっている。
- 北九州市の月別の推移を男女別で見ると、男性は、1月（14人）、5月（14人）、7月（15人）、11月（16人）、女性は2月と3月（各9人）で多くなっています。
- 資料1-②追加資料「男女別・年代別自殺者数」にあるように、北九州市の令和4年について、30から39歳、そして、80歳以上で大きく増えている。特に80歳以上の男性については、前年が5人だったところ、令和4年は23人へと増え、増減率360%となっている。

ウ 令和4年度自殺対策強化月間における取組

- 令和4年度、市民の皆様を対象とした講演会や相談会を実施した他、市民の皆様への広報・啓発を実施した。
- 主なものとして、小倉駅と黒崎駅周辺について、歩道やモノレールの橋脚などを自殺対策のシンボルカラーの緑色にライトアップした他、市立図書館と連携した自殺予防関連図書を紹介、市役所本庁舎1階や、北九州パレス（小倉北区）でのパネル展示、市ホームページ・ツイッターでの相談窓口等の情報提供などを実施した。

（3）協議事項

北九州市自殺対策計画の評価・見直し（第3回）（案）と及び市民意見募集結果について事務局から説明を行った。

8 会議経過（発言内容）

【報告事項について】

構成員：自殺対策強化月間における取組のうち、手応えがあった取組は何か。

事務局：小倉駅等ライトアップや市立図書館での自殺予防関連図書の紹介について、市の他事業の啓発を参考にした。特に市立図書館の取組については、司書の方から、中高生や大学生等で日中居場所がない方が図書館で過ごしていると聞いている。写真は八幡西図書館の取組であるが、「悩める中高生向け本の処方箋」といったことを実施したと聞いている。このような取組を当センター公式ツイッターに掲載すると多くの閲覧があった。また、ツイッターでは、中高年男性の自殺を取り上げたチラシを掲載したところ、閲覧数がすぐに千人を超え、中高年の男性の状況が深刻だということについて、一定の方に対して広報ができたのではないかと考えている。今年度も継続してまいりたい。

構成員：自殺の状況については分かった。自殺の手段はいかがか。

事務局：自殺の手段に関する統計は国のホームページでも公表している。本日の配布資料にはないが、北九州市で一番多いのは首つりで、過去5年間で見ると大体60%程。その次に飛降り、その他、練炭、飛び込み、服毒。主にこういった種類で公表される。

構成員：ライトアップは何時まで実施したのか。やはり明るいと言防ができるということだと思うが、もう少し長くとか、月1ヶ月実施できないか。

事務局：期間中、日没から24時まで実施した。ライトアップの年間スケジュールを所管課へ問い合わせたい。また、本市自殺対策のシンボルカラーとして、市民の皆様「何で緑なんだろう」といったところから、自殺予防について広く知っていただきたい。

構成員：シンボルカラーが緑色であると初めて聞いた。どのように告知しているか。

事務局：昨年9月からの新たに開始した取組である。より広く市民の皆様知っていただけるよう更に周知を図ってまいりたい。

【協議事項について】

構成員：パブリックコメントについて、5番目「救急搬送された自殺未遂者への支援」に関して、救急搬送された後の支援というのは、医療関係だけの後の支援ということか。それとも、本人の退院後の支援のような想定はあるか。

事務局：当センターで実施している自殺未遂者への支援について、具体的には、救急病院に搬送されたときにまず面談し、治療方針や困っていることを伝えてもらい、心理教育を行ったり、実際困ることがあれば、例えば区役所へ同伴する等諸々を含めた対応を行っている。

構成員：今回の見直しに当たり、「こころの健康に関する実態調査」について記載があるが、調査対象者の属性などで結果が異なるのではないかとと思うが、その

あたりはいかがか。

事務局：「こころの健康に関する実態調査」は、直近では令和2年7月に実施した。

「悩みやストレスなどを、だれかに相談したり、助けを求めたりすることが恥ずかしいと思うか」の質問についてもだが、年齢や性別によって差がみられる。年齢や性別に応じて見ていくことも必要と感じる。

構成員：先ほど自殺の手段について質問があったが、インターネットサイトで自殺の方法を調べる人がいると思うし、方法を解説しているサイトもある。こういったサイトに対して、何か相談できるところに結び付けるようなシステムがあるとよいのではないか。また、こども家庭庁が発足し、大臣が子どもの自殺はあってはならないと話していた。ぜひ国の動きとともに市も連携して取り組んでいただきたい。

事務局：サイバーパトロールを警察庁で行っている。例えば、死にたい等のメッセージを上げている人に対してすり寄っていくような、座間市で起きたような事件。そういった投稿をしている方に対して削除していく等を、警察庁の方から委託を受けた団体が行っている。SNSやインターネットで起きる有害な情報とか、自殺に向かうリスクを下げしていく取り組みは国も行っており、情報取りながら、把握していきたいと思っている。また、こども家庭庁に関して、国も自殺総合対策大綱の中でこども家庭庁との連携を言っておりますので、具体的な連携等、考えていくことになるかと思う。

構成員：パブリックコメントの5番にある自殺未遂者への支援だが、どういう病院が夜間とか受け入れができるといった情報について、患者さんとか家族の方に流してもらえるような何かあれば役に立つと思う。

事務局：ご本人含めて家族は自殺未遂を起こしたことについてすごく不安な気持ちが強い。こういった形で情報提供できるか、他の制度等も含めて情報提供のあり方については検討が必要。

議長：前回ここでお話をさせていただいていた意見が少し今回計画に反映されている。パブリックコメントの結果から計画の見直しに及ぶ意見はないが、市には、今後もしっかりと取り組んでいただきたい。年に2回程度の会議であるが、ここで皆さんからたくさんの意見をいただき、また、構成員の中でも連携が引き続きできていければと思う。

【その他】

事務局：北九州市自殺対策連絡会議構成員の自殺対策取り組み状況票について、現在、市ホームページで公開しているところであり、最新情報への更新にあたり、内容の確認について協力を依頼した。